

所 属・職 位	医学部医学科腫瘍・血液内科学講座・教授
氏 名	緒方 正男 (Ogata Masao)
取 得 学 位	博士 (医学)、大分医科大学、1998年3月
SDGs 目標	  
研 究 分 野	血液学
研究キーワード	造血幹細胞移植、ヒトヘルペスウイルス6、HHV-6脳炎、移植後合併症、HTLV-1
研 究 内 容	● 同種造血幹細胞移植後ヒトヘルペスウイルス6脳炎の疾患概念の確立 同種造血幹細胞移植後に急激に悪化する特異な脳炎を連続して経験しこれがヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6) が原因と考え、その疾患単位の確立に取り組んだ。HHV-6再活性化と脳炎発症との関係性について全国多施設前向き観察研究により証明した (論文1)。全国調査を実施し、HHV-6脳炎の臨床像、危険因子や治療と予後との関連について明らかとした (論文2)。これらの成果はHHV-6脳炎の疾患概念の確立に貢献している。 ● 同種造血幹細胞移植後ヒトヘルペスウイルス6脳炎の治療法の確立 全国調査ではホスカルネット治療が良好な予後と関連することを示した (論文2)。この成果を世界初となる移植後HHV-6脳炎治療薬の保険承認につなげた。HHV-6脳炎発症予防のための多施設介入臨床試験を責任者として実施した (論文3)。移植後HHV-6感染症に関する日本造血幹細胞移植学会ガイドラインを部会長として執筆し (著書1)、欧州骨髓移植学会機関紙にもガイドラインを掲載した (論文4)。このようにHHV-6脳炎の治療で世界をリードしている。 ● 同種造血幹細胞移植後合併症の克服に関する研究 同種造血幹細胞移植後の感染症や臓器障害などの合併症克服のための多数の検討を日本造血細胞移植学会・合併症ワーキンググループにおいて実施した。2015年から2019年まではワーキンググループ責任者として全国の移植医による提案研究に助言と指導を行なった。 ● HTLV-1キャリアの疫学研究 AMED研究事業におけるHTLV-1の全国的疫学研究に研究開発参加者として参加し、感染総合対策の確立に取り組んでいる。
研 究 業 績・アピールポイント	● 論文 2013年、Ogata M, et al. Human herpesvirus 6 (HHV-6) reactivation and HHV-6 encephalitis after allogeneic hematopoietic cell transplantation: a multicenter, prospective study. Clin Infect Dis. 2017年、Ogata M, et al. Clinical characteristics and outcome of human herpesvirus-6 encephalitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Bone Marrow Transplant. 2018年、Ogata M, et al. Effects of Prophylactic Foscarnet on Human Herpesvirus-6 Reactivation and Encephalitis in Cord Blood Transplant Recipients: A Prospective Multicenter Trial with an Historical Control Group. Biol Blood Marrow Transplant. 2020年、Ogata M, et al. Clinical practice recommendations for the diagnosis and management of human herpesvirus-6B encephalitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Bone Marrow Transplant. ● 著書 - 緒方正男、高野久仁子、橋井佳子、植木俊光、森康雄 (共著). 造血細胞移植ガイドライン HHV-6 (第2版)、日本造血・免疫細胞療法学会 ● 受賞 2021年、一般社団法人日本造血細胞移植学会 第3回日本造血細胞移植学会 学会賞 2021年、大分大学学長表彰

